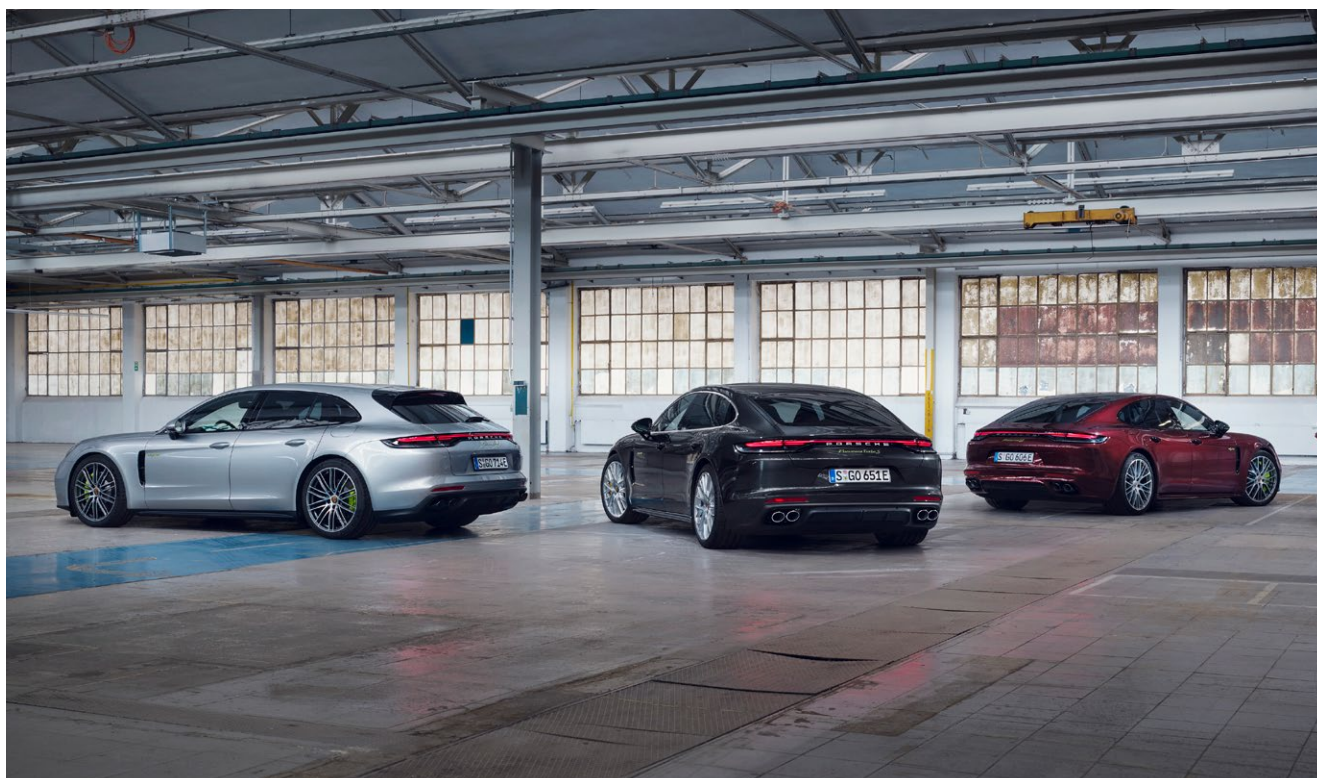




PORSCHE



# ニューパナメーラ ハイブリッドモデル

プレスキット

# 目次

ハイライト

<b>ポルシェ ドライブ戦略を支える3台のニューパナメーラ プラグインハイブリッドモデル</b>	<b>5</b>
--	----------

3つのドライブテクノロジー

<b>体系的に持続可能なモビリティに焦点を当てるポルシェ</b>	<b>7</b>
----------------------------------	----------

概要

<b>E-パフォーマンス戦略の体系的な拡張</b>	<b>10</b>
---------------------------	-----------

パワートレインと性能

<b>最高出力700PSを頂点とした、効率性に優れる3台のハイブリッド</b>	<b>12</b>
---	-----------

シャシーとシャシーシステム

<b>さらにスポーティーに、いっそう快適に</b>	<b>16</b>
---------------------------	-----------

コネクティビティーとインフォテインメント

<b>コネクティビティーがいちだんと向上</b>	<b>18</b>
--------------------------	-----------

E-フューエル:空気、水、電力によって生成されるガソリン

<b>未来の燃料について集中的な研究を行うポルシェ</b>	<b>23</b>
-------------------------------	-----------

ポルシェ デスティネーションチャージング

<b>充電インフラの拡張を加速するポルシェ</b>	<b>26</b>
---------------------------	-----------

用語集

<b>充電に関する最重要技術用語</b>	<b>28</b>
----------------------	-----------

## 燃料消費量およびCO<sub>2</sub>排出量

パナメーラ ターボS E-ハイブリッド モデル: 燃料消費量(複合)2.8-2.7リッター/100km、  
電力消費量(複合)22.8-21.8kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)63-62g/km

パナメーラ4S E-ハイブリッド モデル: 燃料消費量(複合)2.3-2.0リッター/100km、  
電力消費量(複合)19.5-17.4kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)53-47g/km

パナメーラ4 E-ハイブリッド モデル: 燃料消費量(複合)2.3-2.1リッター/100km、  
電力消費量(複合)18.2-17.0kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)51-47g/km

パナメーラ ターボS E-ハイブリッド: 燃料消費量(複合)2.7リッター/100km、  
電力消費量(複合)21.8kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)62g/km

パナメーラターボS E-ハイブリッド エグゼクティブ: 燃料消費量(複合)2.8リッター/100km、  
電力消費量(複合)22.7kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)63g/km

パナメーラ ターボS E-ハイブリッド スポーツツーリスモ: 燃料消費量(複合)2.8リッター/100km、  
電力消費量(複合)22.8kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)63g/km

パナメーラ4S E-ハイブリッド: 燃料消費量(複合)2.2-2.0リッター/100km、  
電力消費量(複合)18.1-17.4kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)51-47g/km

パナメーラ4S E-ハイブリッド エグゼクティブ: 燃料消費量(複合)2.3-2.2リッター/100km、  
電力消費量(複合)19.5-17.6kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)53-50g/km

パナメーラ4S E-ハイブリッド スポーツツーリスモ: 燃料消費量(複合)2.2-2.1リッター/100km、  
電力消費量(複合)19.3-17.4kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)52-49g/km

---

パナメーラ4 E-ハイブリッド: 燃料消費量(複合)2.2-2.1リッター/100km、  
電力消費量(複合)17.5-17.0kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)49-47g/km

パナメーラ4 E-ハイブリッド エグゼクティブ: 燃料消費量(複合)2.2リッター/100km、  
電力消費量(複合)18.0-17.4kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)51-49g/km

パナメーラ4 E-ハイブリッド スポーツツーリスモ: 燃料消費量(複合)2.3-2.2リッター/100km、  
電力消費量(複合)18.2-17.5kWh/100km、CO<sub>2</sub>排出量(複合)51-49g/km

全ての情報はEUモデルを参照しています。

燃料消費量とCO<sub>2</sub>排出量の値は、新しい「乗用車などの国際調和排出ガス・燃費試験法」(WLTP)に従って決定されました。当面は、引き続きここから算出されたNEDC値が明記されなければなりません。これらの値は、これまで使用されてきたNEDC測定手順に従って決定された値と比較することはできません。乗用車の新しい公式燃料消費量と公式CO<sub>2</sub>排出量に関する詳細は、全ての販売店およびDeutsche Automobil Treuhand GmbH(DAT)から無料で入手することができる「新しい乗用車の燃料消費量、CO<sub>2</sub>排出量、および電力消費量に関するガイドライン」をご覧ください。

ハイライト

## ポルシェ ドライブ戦略を支える3台のニューパナメーラ プラグインハイブリッドモデル

### 3つのドライブテクノロジー

ポルシェは未来志向のドライブコンセプトを開発しており、パナメーラ ハイブリッドファミリーの根本的な強化や拡張といった製品攻勢、充電インフラの急速な拡張、E-フューエル(二酸化炭素と水素の合成液体燃料)の開発への参加によって、先駆的な役割を果たしています。

### 効率性に優れた3台

ポルシェは、ひとつの製品ラインで3台の異なるプラグインハイブリッドモデルを初めて提供します。412kW(560 PS)のシステム出力を備えた4S E-ハイブリッドは、4 E-ハイブリッド(340kW/462PS)とターボS E-ハイブリッド(515kW/700PS)の間の完全に新しいバージョンとして位置付けられています。

### 918スパイダーのDNA

最もパワフルなパナメーラ モデルはプラグインハイブリッドで、ターボS E-ハイブリッドは、515kW(700PS)のシステム出力と870N・mのシステムトルクを発生します。この車のパフォーマンスプログラムはスーパースポーツカー、918スパイダーから採用されています。

### 電気駆動での走りがさらに進化

パナメーラ ハイブリッドモデルの電気駆動のみによる航続距離は、新しい17.9kWh高電圧バッテリー(先代は14.1kWh)と最適化されたドライビングモードによって最大30%延長されていますが、ラゲッジコンパートメント容量に変わりはありません。

### 強化されたドライビングエクスペリエンス

最適化されたドライビングモードは、走行中の充電効率向上にいっそう重きを置いています。バッテリーの充電がいちだんと速くなる一方、インテリジェントなエネルギー回生によってエレクトリックドライブのより効率的な使用が可能になりました。

## 強化されたドライビングエクスペリエンスII

全てのシャシーコンポーネントと制御システムがさらに進化したことで、ニューパナメーラ モデルは走行快適性とコーナリング安定性の双方がいちだんと向上しただけでなく、スポーツ性と快適性のバランスもさらに強化されました。

## CO<sub>2</sub>排出量の低減に寄与するE-フューエル

ポルシェは、E-モビリティに加えてE-フューエルの分野の研究も行っています。これらの燃料を使用すると、純粋なエンジンとプラグインハイブリッドは、ほぼCO<sub>2</sub>ニュートラルで作動することができます。E-フューエルは、空気から取り出された水素と二酸化炭素から作られた合成液体燃料です。再生可能エネルギーのみで生産することができるため、理想的な燃料となっています。

## 充電インフラのさらなる拡張。

ポルシェは、ポルシェ デスティネーションチャージングネットワークにさらに投資します。チャージングネットワークのこのパートには、三相400V交流電流 (AC) と11kWの出力を備えた充電ポイントが含まれます。

※車両および充電インフラの仕様は日本と異なる場合があります。

### 3つのドライブテクノロジー

## 体系的に持続可能なモビリティに焦点を当てるポルシェ

ポルシェは持続可能なモビリティのパイオニアとして、過去数年間にわたり重要なステップを歩んできています。その間の成果としては、電動スポーツカーのタイカンが発売から好調であることや、ツッフェンハウゼンのCO<sub>2</sub>-ニュートラルな工場でニューモデルの生産を開始していることなどが挙げられます。パナメーラ ハイブリッドファミリーの根本的な強化や拡張といった製品攻勢、充電インフラの急速な拡張、E-フューエル(二酸化炭素と水素の合成液体燃料)の開発への関与によって、ポルシェはその先駆的な役割を担い続ける考えです。

「2025年までに、ポルシェの新車の半数がフル電気ドライブまたはパーシャル電気ドライブになります」とポルシェAG開発担当役員であるマイケル・シュタイナー博士は述べています。「ポルシェの戦略は、3種類のドライブシステムをベースにして推し進められます。車両の種類としては、タイカンなどの純粋な電気自動車、きわめてエモーショナルな走りを実現するエンジン車、そしてゼロローカルエミッションのプラグインハイブリッド車が含まれます。この3種類のドライブテクノロジーは、それぞれが中期的に市場での地位を保つものと確信しています。」

効率的なエンジンを生み出せる可能性はまだ十分にあります。ガソリンエンジンの効率は、さらに引き上げることが可能です。純電気自動車の未来に伴う対策として、ポルシェはE-フューエル(二酸化炭素と水素の合成液体燃料)の使用にも重点的に取り組んでいます。CO<sub>2</sub>排出量が、E-フューエル製造時に空気から取り出されたCO<sub>2</sub>の量に対応するため、この合成燃料を使用することで、ガソリンエンジンはほぼカーボンニュートラルな作動が可能になります。シュタイナー:「当社は、これまでに製造された全てのポルシェ車のうち、70%が今でも道路を走っているという事実を非常に誇りに思っています。E-フューエルの使用によるCO<sub>2</sub>排出量の削減によって、これらの大半が推進される可能性があります。モータースポーツにおいても、完全合成燃料が持続可能な改善をもたらすこととなります。」

持続可能性を総合的に考えるポルシェは、社会的および経済的分野だけでなく環境保護にも意欲的に取り組んでいます。目標は、これに基づいて付加価値のある成長を保証することです。ポルシェは、社会的責任を拡大し、環境への悪影響を減らしながら収益性を維持したいと考えています。持続可能性は、ポルシェの戦略の中心の柱であり、ポルシェは、同社の活動のあらゆるレベルにおいて各業務がより持続可能なものとなるよう、付加価値連鎖全体に沿って対策を講じています。

持続可能性の管理と同社の戦略、および利害関係者との意見交換とKPIの状況に関する詳細な情報については、最新のポルシェAG年次およびサステナビリティレポートとポルシェ ニュースルームをご覧ください。

## プラグインハイブリッド：最大 30% 延長された航続距離

ポルシェは、パナメーラとともに、初めてひとつの製品ラインで3台の異なるプラグインハイブリッドモデルを提供します。412kW(560 PS)のシステム出力を備えた4S E-ハイブリッドは、4 E-ハイブリッド(340kW/462PS)とターボS E-ハイブリッド(515kW/700PS)の中間に位置づけられる、まったく新しいモデルになります。

パナメーラ ハイブリッドモデルの電気駆動のみによる航続距離は、17.9kWhの新しい高電圧バッテリー(先代は14.1kWh)と最適化されたドライビングモードによって最大30%延長されています。

最適化されたドライビングモードは、走行中の充電効率向上にいっそう重きを置いています。バッテリーの充電がいちだんと速くなったのに加え、インテリジェントなエネルギー回生によってエレクトリックドライブのより効率的な使用が可能になりました。

## E-フューエル：空気、水、電力によって生成されるガソリン

ポルシェはE-フューエルについて集中的な研究を行っています。この合成燃料を使用すると、純粋なエンジンとプラグインハイブリッドをほぼCO<sub>2</sub>ニュートラルに駆動することができます。E-フューエルは、空気から取り出された水素と二酸化炭素から作られた合成液体燃料です。再生可能エネルギー源から生成された電力がこの目的のために使用されます。この燃料の保管と輸送には、従来のインフラを使用することができます。E-フューエルは、ポルシェが追求する持続可能性戦略の重要な要素であるCO<sub>2</sub>排出量の削減に寄与します。



ポルシェはまた、研究構想“reFuels – Rethinking Fuels”（リフューエル – 燃料の再考）の一環としてこの燃料の開発も支援しています。この中で、カールスルーエ工科大学（KIT）は、バーデン-ヴュルテンベルク運輸省、他の3つの州の省庁、そして自動車、自動車供給および鉱油業界の多数のパートナーとともに、再生可能燃料の効率的な生産と使用を調査しています。

## **ポルシェ デスティネーションチャージング：充電インフラのさらなる拡張。**

ポルシェは設定ペースを速くしていることから、ポルシェ デスティネーションチャージングネットワークに対しての投資をさらに行います。チャージングネットワークのこのパートには、三相400V交流電流（AC）と11kWの出力を備えた充電ポイントが含まれます。

ポルシェ デスティネーションチャージングは、ポルシェ チャージングサービスという統合型コンセプトを構成する要素のひとつです。充電ステーションの検索とナビゲーション、ステーションでの認証、支払い、サポートなど、充電サービスのためのあらゆる重要要件をひとつのアプリに結び付けます。

※車両および充電インフラの仕様は日本と異なる場合があります。

## 概要

# E-パフォーマンス戦略の体系的な拡張

ポルシェは、E-パフォーマンス戦略の体系的な追求を継続しています。一新された製品ラインの中で最もパワフルなバージョンであるニューパナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、420kW(571PS)の4リッターV8ツインターボエンジンと100kW(136PS)の電気モーターが、515kW(700PS)のシステム出力と870N・mのシステムトルクを発生します。電気駆動のみによる航続距離は、新しい17.9kWhバッテリーと最適化されたドライビングモードによって、最大30%延長されています。これはニューパナメーラ4 E-ハイブリッドにも当てはまります。243kW(330PS)の電気モーターが2.9リッターV6ツインターボエンジンによって補完され、340kW(462PS)のシステム出力を発生します。ポルシェは、412kW(560PS)のシステム出力を備えたニューパナメーラ4S E-ハイブリッドとあわせて、初めて3台のパナメーラ プラグインハイブリッドモデルを提供します。それぞれにスポーツサルーン、エグゼクティブ(ロングホイールベースバージョン)、スポーツツーリスモの3種類のボディバージョンが揃います。

全てのパナメーラ ハイブリッドモデルを支えるドライブアーキテクチャーの中心となるのが100kW(136PS)の出力と400N・mのトルクを発生する電気モーターで、8速デュアルクラッチトランスミッション(PDK)に統合され、各エンジンとの組み合わせで卓越した走行性能をもたらします。420kW(571PS)(先代:404kW/550PS)の4リッターV8ツインターボエンジンを搭載したニューパナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、標準装備のスポーツクロノパッケージを使用するとき、0-100km/h加速タイムは先代を0.2秒上回る3.2秒をマークし、最高速度は先代を5km/h上回る315km/hに達します。パナメーラ4 E-ハイブリッドは、静止状態からわずか4.4秒(-0.2秒)で100km/hまで加速し、280km/h(+2km/h)で最高速度に達します。

高電圧バッテリーの総容量は、最適化されたセルの使用によって14.1kWhから17.9kWhに増加し、ドライビングモードはより効率的なエネルギー利用に適合されています。ニューパナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、WLTP EAER Cityモードで最大50km(NEDC:最大59km)の電気駆動のみによる航続距離を備え、パナメーラ4 E-ハイブリッドは、WLTP EAER Cityモードで最大56km(NEDC:最大64km)をローカルエミッションなしで走行します。パナメーラ4S E-ハイブリッドの電気駆動のみによる航続距離は、WLTP EAER Cityモードで最大54km(NEDC:64km)です。ポルシェ プラグインハイブリッドモデル

は、標準の家庭用コンセントや電源ソケットを介して自宅で充電することができます。標準装備のポルシェ モバイルチャージャーを使用するとき、モデルに応じて7.2kWの充電容量が得られます。モード3ケーブルを用いて公共の充電ポイントで充電することも可能です。

ニューパナメーラ プラグインハイブリッドモデルは、最新モデルのアップデートのために最適化された全てのメリットを受けます。パナメーラ4 E-ハイブリッドとパナメーラ4S E-ハイブリッドには、先代ではオプション装備だったスポーツデザイン フロントエンドが標準装備され、目を惹くエアインテークグリルとその両側の大型クーリングエアサイド開口部、およびシングルバーフロントライトレイアウトが含まれます。パナメーラ ターボS E-ハイブリッドの新設計されたフロントエンドは、デュアルC形ターボ フロントライトモジュールと、大型サイドエアインテークによって差別化されています。改良されたリアライトバーは、フォルムが適合されたラゲッジコンパートメントリッド上をシームレスにつなぎます。オプションには、ダイナミックカミング/リービングホーム アニメーションを備えたエクスクルーシブデザイン ティンテッドテールライトモジュール、3種類の新しい20/21インチ ホイール、2色の新しいエクステリアカラー（チェリー メタリックとトリュフブラウン メタリック）が含まれます。

さらに高いディスプレイ解像度を備えたポルシェ コミュニケーションマネジメント(PCM)には、改良されたVoice Pilotオンラインボイスコントロール、道路標識と危険情報のためのリスクレーダー、ワイヤレス Apple® CarPlay、その他多くのConnectサービスなど、追加のデジタル機能とサービスが含まれます。

全てのニューパナメーラ モデルでは、シャシーおよびコントロールシステムがスポーツ性と快適性を両立できるように調整されています。モデルによっては、完全に新しいコントロールプログラムが装備されます。新世代のステアリングコントロールシステムと新しいタイヤによって、横方向のダイナミクスと精度が向上しています。フラグシップモデルのパナメーラ ターボS E-ハイブリッドには、ポルシェトルクベクトリングプラス(PTV Plus)を含むポルシェ ダイナミックシャシーコントロール スポーツ(PDCC Sport) 電子制御ロール抑制システム、パワーステアリングプラスを含むリアアクスルステアリング、ポルシェ セラミックコンポジットブレーキ(PCCB)システムなど、現在利用可能な全てのシャシーおよびコントロールシステムが標準装備されます。

※車両および充電インフラの仕様は日本と異なる場合があります。

## パワートレインと性能

# 最高出力700PSを頂点とした、効率性に優れた3台のハイブリッド

ニューパナメーラE-ハイブリッド モデルは、先代と同じパワートレインアーキテクチャーを引き続き使用します。アーキテクチャーの中心となるのが100kW(136PS)の出力と400N・mのトルクを発生する電気モーターで、各モデルに搭載されたそれぞれのエンジンと918スパイダー スーパースポーツカー由来のブーストプログラムを組み合わせることで、ユニークなハイパフォーマンスのドライビングエクスペリエンスをもたらします。電気モーターは8速デュアルクラッチトランスミッション(PDK)に統合されており、ポルシェの全てのプラグインハイブリッドモデルにスポーツクロノパッケージが標準装備されます。

## パナメーラ4S E-ハイブリッド

ニューパナメーラ4S E-ハイブリッドは、完全なニューモデルとしてポルシェ ハイブリッドのラインナップに加わります。システム出力412kW(560 PS)とシステムトルク750N・mを備えたこの3台目のE-ハイブリッドモデルは、完全に改良された4 E-ハイブリッドモデルとターボS E-ハイブリッドモデルの間に位置付けられます。4S E-ハイブリッドでは、電気モーターが324kW(440PS)の2.9リッターV6ツインターボエンジンを補完します。標準装備のスポーツクロノパッケージと組み合わせるとき抜群の性能が得られ、0-100km/h加速タイムは3.7秒、最高速度は298km/hに達します。

## パナメーラ4 E-ハイブリッド

340kW(462PS)のシステム出力を発生するパナメーラ4 E-ハイブリッドは、この製品ラインのハイブリッドファミリーのエントリーモデルです。電気モーターが出力243 kW(330 PS)の2.9リッターV6ツインターボエンジンを補完し、先代に比べて性能が向上。パナメーラ4 E-ハイブリッドは、静止状態からわずか4.4秒(-0.2秒)で100km/hまで加速し、最高速度は280km/h(+2km/h)に達します。

## パナメーラ ターボS E-ハイブリッド

プラグインハイブリッドはパナメーラのラインナップの中で最もパワフルなモデルです。パナメーラ ターボS E-ハイブリッドのシステム出力は、先代の500kW(680PS)から515kW(700PS)に増加しています。これは、4リッターV8ツインターボエンジンが、先代の404kW(550PS)を上回る420kW(571PS)

を発生することによります。電気モーターとの完全な相互作用が870N・mのシステムトルクをもたらす、0-100km/h加速タイムは先代を0.2秒上回る3.2秒をマーク。最高速度は先代を5km/h上回る315km/hに達します。

## プラグインテクノロジーとドライビングモード

全てのニューパナメーラ ハイブリッドモデルは、さらにパワフルな高電圧バッテリーと最適化されたドライビングモードのメリットを受けます。現在、走行中の充電を高効率化するための取り組みにさらなる重きが置かれているため、選択したドライビングモードに応じてバッテリーの充電が速くなります。同時に、インテリジェントなエネルギー回生によってエレクトリックドライブのより効率的な使用が可能になっています。

電気モーターは、車のリアに取り付けられた高電圧バッテリーからエネルギーを引き出します。電気駆動のみでの航続距離を延長するとともにエレクトリックブーストのリザーブ容量を拡張するため、バッテリーの総容量は、セルの最適化によって先代ハイブリッドモデルの14.1kWhから17.9kWhに増大しています。これは、27%の増加に相当します。ラゲッジコンパートメントフロア下のバッテリーの設置スペースはコンパクトなままで、スポーツサルーンは403リッターから1,242リッター（スポーツツーリスモ:418リッターから1,287リッター）の広々としたラゲッジ容量を提供します。最適化されたドライビングモードによって、電気駆動のみによる航続距離は最大30%延長されています。ニューパナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、WLTP EAER Cityモードで最大50km (NEDC:最大59km)をローカルエミッションなしで走行します。パナメーラ4S E-ハイブリッドの電気駆動のみによる航続距離は、WLTP EAER Cityモードで最大54km (NEDC:64km)です。特に効率的なニューパナメーラ4 E-ハイブリッドは、WLTP EAER Cityモードで最大56km (NEDC:64km)の電気駆動のみによる航続距離を備えます。

## エレクトリックドライビングエクスペリエンスのために最適化されたモード

標準装備されるスポーツクロノパッケージにはモードスイッチが含まれていて、これを使用すると、E-パワー、ハイブリッドオート、スポーツ、スポーツプラスの4つのドライビングモードを切り替えることができます。E-ホールドとE-チャージの2つの追加モードは、ポルシェ コミュニケーションマネジメント (PCM) を介して作動させます。

エレクトリックドライビングエクスペリエンスをさらに強化するため、走行中に高電圧バッテリーを充電するためのモードが最適化されています。ニューパナメーラ ハイブリッドモデルは、標準としてE-パワーモードでスタートします。従来のようにアクセルペダルの踏み込みによって、電気モーターとエンジンの最適な相互作用が得られます。メータパネルディスプレイの左側からアクセス可能なハイブリッドアシスタンスは、現在使用しているトルクと利用可能な最大トルクの関係を実タイムに表示します。アクセルペダルを約50%の角度まで踏むと、電気モーターの最大トルクに達します。E-パワーモードでは、ペダル角度が約60%を超えるとエンジンが作動します。アクセル開度50%~60%間のペダルストロークを認識できることによって、エレクトリック走行が最適に制御されます。高電圧バッテリーがE-パワーモードの最低充電レベルを下回ると、自動的にハイブリッドオートモードに切り替わります。

インテリジェントなハイブリッドオートモードは、市街地やクロスカントリーの走行において最良の作動効率が得られます。電気モーターとエンジンをできるだけ最良に組み合わせるために、ドライビングプロフィール、充電状態、地形、速度、ナビゲーション目的地に関連する情報から、最適な作動プログラムが連続的に導き出されます。電気駆動のみによる走行は、全体的な効率の観点から最も適切な選択条件において使用されます。ハイブリッドオートモードは、ドライバーの習慣にも最適に適応します。ルート案内が作動すると、市街地走行を中心にエレクトリックドライブがより集中的に使用されます。高電圧バッテリーは、エンジンが作動する走行条件下でより多く充電されます。

E-ホールドモードでは、高電圧バッテリーの充電状態は、モード選択時に記録されたレベルに維持されます。つまり、バッテリーエネルギーを後でエレクトリック走行やブースティングに使用することができます。E-チャージモードでは、エンジンの生み出す出力がその時点の走行に必要な出力を上回るため、バッテリーが充電されます。この負荷ポイントシフトは、電気駆動のみによる航続距離を予測的に増やす選択肢をドライバーに提供します。ニューハイブリッドモデルのE-チャージモードは、バッテリーに適合された充電プログラムに従います。バッテリーの目標充電レベルが、先代の100%から80%に引き下げられています。これは、車のバッテリーの充電が、スマートフォンのバッテリーと同様に、約80%の充電レベルから大幅に遅くなり効率が低下するという事実に基づきます。この引き下げによって、常に完全な回生出力を利用することが可能になり、7.2kWの定充電電力仕様によってバッテリーは迅速かつ再現可能な方法で充電されます。そのため、全体としてより効率的になったE-チャージモードは、以前よりもダイレクトに体験することができます。

スポーツとスポーツプラスはどちらもパフォーマンス重視のモードであるため、エンジンが常に作動します。スポーツモードはきわめてスポーティーな車両特性を引き出すことから、田舎道や高速道路を高速走行する際に最適です。このモードにすると、ドライブシステムとシャシーがスポーツ設定に切り替わります。バッテリーは、スポーティーなドライビングスタイルに十分なブーストを提供するために可能な最低レベルまで充電されます。スポーツプラスモードでは、全てのポルシェ モデルの焦点が最高のスポーツ性に向けられ、ドライブとシャシーは高性能に適合されます。パナメーラ ハイブリッドモデルのスポーツプラスモードは、バッテリーが80%まで急速充電されるためスポーツモードと異なります。12kWの高い定充電電力でこれが行われます。

※車両および充電インフラの仕様は日本と異なる場合があります。

## シャシーとシャシーシステム

# さらにスポーティーに、いっそう快適に

シャシーの快適性とコーナリングの安定性は、ニューパナメーラのさらに強化されたシャシーコンポーネントとコントロールシステムから等しくメリットを受けます。たとえば、改良されたポルシェ アクティブサスペンションマネジメント (PASM) は、ダンパーの快適性を大幅に向上させます。48Vポルシェ ダイナミックシャシーコントロール スポーツ (PDCC Sport) ロール抑制システムの制御によって、ボディの安定性が増し、グリップとトラクションもさらに向上します。911カレラおよびタイカン モデル由来のソフトウェアを備えた新世代ステアリングコントロールシステムは、ステアリングレスポンスを改善し、ドライバーのフィードバックを強化してさらに優れた精度とダイレクト性を実現します。この結果、ニューパナメーラは快適性が大幅に向上しているにもかかわらず、走りのパフォーマンスの面でセグメントのベンチマークを再び打ち立てています。

## タイヤとホイールの新しいデザイン

タイヤは車のハンドリングに大きな影響を与えるため、ポルシェのシャシー開発では常にタイヤが重視されます。これを受けてニューパナメーラには、改良されたタイヤが装着されます。新しい20インチと21インチのサマータイヤは、快適かつスポーティーであると同時に、転がり抵抗が低減されています。初めて提供されるパナメーラ専用開発されたスポーツタイヤは、ソフトなラバーコンパウンドと最適化されたトレッドを備えます。横方向の性能を向上させたこれらのタイヤは、ダイナミックコーナリングに特に適しています。

新しい20インチホイールと2種類の新しい21インチホイールとともに、合計10種類のホイールデザインが用意されています。ここには、ブライtpolリッシュエリア、カラー塗装リムベース、およびポルシェ カラー クレスト付ホイールセンターキャップを備えた21インチ エクスクルーシブデザイン軽合金製ホイールも含まれます。最新世代のマルチファンクションステアリングホイールも装着されます。視覚的なカットアウトによってレーシングカーに見られる軽量のステアリングホイールが想起されます。



## 最適化された電気機械式ブレーキブースター

全てのパナメーラ モデルには、それぞれのモデルの出力に合わせた十分な寸法のパワフルなブレーキが装備されています。ニューパナメーラ ターボS E-ハイブリッドには、サーキットテスト済みのポルシェ セラミックコンポジットブレーキ (PCCB) が標準装備されます。ブレーキディスクの外径は、フロント 420mm、リア 410mm です。

パナメーラ ハイブリッドモデルで使用されている電気機械式ブレーキブースターは、一定のブレーキペダル特性を備え、電気回生ブレーキと機械式ブレーキをさまざまに組み合わせます。ペダルフィールは、フィードバックの向上と精確な制御のためにさらに最適化されています。

コネクティビティとインフォテインメント

## コネクティビティがいちだと向上

ポルシェ コミュニケーションマネジメント(PCM)システムには、アップグレードされたVoice Pilotオンラインボイスコントロール、リスクレーダー、ラジオプラス、ワイヤレスApple® CarPlayなどの新しいデジタル機能とサービスが組み込まれています。Porsche Connectサービスの範囲も見直しされ、拡張されました。ニューパナメーラは、標準装備のオンライン接続との組み合わせにおいて、セグメント内で絶対的な優位性を明確に示しています。

### Connect Plus

ニューパナメーラのConnect Plusモジュールは、インフォテインメントおよびコネクティビティシステムを拡張して次の機能を追加します。

- SIMカードリーダーと統合LTE対応SIMカードを備えたLTE通信モジュール
- Porsche Connectアプリ
- Porsche Car Connectアプリ
- サービスパッケージ:ナビゲーション&インフォテインメントパッケージ、セーフティー、セキュリティ&リモート機能
- データパッケージ
- コンシェルジュサービス(中国のみ)

ConnectPlusモジュールに含まれるSIMカードリーダーを備えたLTE通信モジュールは、最適な音声品質とデータ転送を保証します。選択したPorsche Connectサービスを使用するためにLTE対応SIMカードが車両に統合されており、独自のSIMカードを必要としません。統合カードリーダーを使用したデータ転送に自分の外部SIMカードを使用することもできます。自分のSIMカードを使用して電話をかける場合は、外部アンテナを使用することで最適な音質が得られます。

## Apple® CarPlay

Apple® CarPlayを使用すると、ポルシェ コミュニケーションマネジメント(PCM)に接続したiPhone®の個々の機能やアプリにアクセスすることができます。Apple® CarPlayを使用するには、iPhone®をスマートフォントレーのUSBポート経由で接続するか、ワイヤレスで接続します。その後、ホーム画面からCarPlayメニュー項目を選択します。Siri®音声認識機能を使用してアプリを便利に操作することができます。

## 誘導充電機能付スマートフォントレー

充電電力が5Wのスマートフォンは、スマートフォントレーの誘導充電機能を使用してワイヤレスで充電されます。専用の充電エリアにスマートフォンを置くだけで充電が開始します。誘導充電機能は、ワイヤレスエネルギー伝達の相互運用性を保証するQi規格を使用しています。誘導充電機能対応の各種メーカーのスマートフォンを充電することができます。

## 新機能を備えたConnectサービス

Connect Plusモジュールに含まれるConnectサービスは、ニューパナメーラの機能範囲を大幅に強化します。オンライン接続によって高速ルート計算に常に最新データを利用することが可能になり、スウォームベースのデータによって、選択したルートの現在の危険性など、車両間の情報交換が可能になります。

その他のサービスと機能には、Porsche Connectアプリ、Porsche Car Connectアプリ、FM、DAB、インターネットラジオソース間の自動切り替えを含むインターネットラジオ、改善されたボイスコントロール、Car Connectサービスを使用してナビゲーションの目的地をすばやく見つけるためのファインダー、リモート機能、セキュリティおよび緊急サービスが含まれます。Connectサービスを使用するには、オンライン接続が必要です。車両に統合されたLTE対応SIMカードやユーザーのSIMカードを使用してオンライン接続することができます。

## Radio Plusで常に最高の受信

パナメーラの新機能が、統合されたインターネットラジオとハイブリッドラジオ機能を組み合わせたRadio Plusサービスです。PCMへのインターネットラジオの統合によって、お気に入りのラジオ局のグローバルオンラインチャンネルにアクセスすることができます。人気、国、ジャンル、言語によるラジオ局の並べ替

えや、インターネットラジオを用いたポッドキャストのストリーミングも可能です。環境条件でラジオ局の地上波信号 (FM) やデジタル信号 (DAB) が受信できない場合、ニューパナメーラのPCMは、手動調整しなくても、ハイブリッドラジオ機能によって関連するオンラインラジオ局のチャンネルに自動的に切り替わります。ドライバーはオンライン接続を介して希望のラジオ局を聴き続けることができます。オンラインラジオ局の情報の利用は、ラジオ局がこの情報をサポートしている場合に限りです。

## 音声認識がさらに強化されたVoice Pilot

他のモデルシリーズですでおなじみのVoicePilotによってPCMのボイスコントロールが拡張され、オンラインサポートが含まれるようになりました。ニューパナメーラでは、自然な音声による入力システムの認識精度がさらに向上し、複雑な入力も認識され、望みどおりの情報交換が可能になっています。Voice Pilotのインテリジェントな音声理解機能によって、固定表現の必要なく自由かつ柔軟に車両との通信が行われます。たとえば、ニューパナメーラのエアコンは、“I’m cold”や“I’m hot”などの音声コマンドで制御することができます。システムのオンライン接続は、音声認識機能を常に最新の状態に保ち、ドライバーの自然な言葉による入力を保証します。同時に音声出力も最適化します。Voice Pilotは、オンライン音声認識、オンラインテキスト読み上げ、音声入力、およびアプリやサービスの音声対話機能に使用されます。データ接続が利用できない場合、Voice PilotはバックアップとしてPCM (オフライン) ボイスコントロールを使用します。

## ナビゲーション：オンラインでもオフラインでも常に最適な道を進む

ニューパナメーラ モデルのナビゲーションシステムのルート計算は、オンラインとPCMの両方で並行して行われます。そのため、両方の長所を活用することができます。オンラインナビゲーションは、最新の地図にアクセスしてルート全体のあらゆる交通情報を考慮します。一方のPCMナビゲーションは、オンライン接続の有無にかかわらず常に利用することができます。PCMは、どちらのナビゲーションシステムが最適なルートを計算したかを独自に決定しますが、常に最も速く計算された結果から開始します。目的地は、PCMだけでなく、Porsche ConnectアプリやMy Porscheも使用して、旅行の前に便利に作成することも可能で、ポルシェIDによる識別で同期されます。リアルタイム交通データ情報は、ダイナミックなルート案内を提供します。この情報を使用して、マップビューの道路が交通状況に応じて緑、黄、または赤で強調表示されます。ステータスバーのオンライン接続アイコンは、リアルタイム交通データが利用可能であるか否かを知らせます。通常の2次元または透視図の表示に加えて、建物、道路、施

設の衛星データによる航空写真を表示することもできます。さらに、ファインダーに検索を入力すると、入手可能な場合はPCMの右端の詳細リストにパノラマビューが表示されるので、目的地の印象を把握することができます。

PCMは、Personal Routes機能を使用して頻繁に走行するルート(3回以上走行したルート)を学習し、ドライバーにナビゲーションを提案します。この予測ナビゲーションは、関連ルートの交通量を追加して機能を拡張します。ナビゲーションの地図を常に最新の状態に保つためにオンラインアップデートが使用されます。必要なデータ量を減らすために関連する変更のみがダウンロードされるので、既存の最新ナビゲーションマップを再ロードする必要はありません。

ニューパナメーラは、車両をリンクすることで、他の車両から匿名で提供された共有情報、いわゆるスウォームデータを利用することができます。リアルタイムの交通データと同様に、道路標識認識機能からの情報もシステムの最適化に使用されます。車両はまた、入手可能なデータに基づいて地域の危険についてドライバーに通知し、安全性を高めます。

ファインダーは中央ナビゲーションの検索機能で、PCM画面の上部にある検索アイコンを使用していなくてもアクセス可能です。検索リクエストは、フルHDタッチディスプレイからナビゲーションメニューに直接入力するか、音声コマンドで入力することができます。オンライン接続が利用可能な場合、可能な限りデータが最新になるように、全ての情報がインターネット経由で提供されます。ユーザーは、PCMのオンライン検索とGOOGLE®のブラウザ検索のどちらかを選択できます。ガソリンスタンドと駐車スペースのPOI情報が拡張され、レストラン、充電ステーション、ホテルが含まれるようになりました。営業時間や価格などの詳細情報に加えて、POIの評価もPCMに表示されます。

POIは、現在地の近く、ルート沿い、目的地、または任意の住所で検索できます。POIはナビゲーションメニューに統合されて、使いやすさも向上しています。

## Car Connectアプリ

Porsche Car Connectアプリは、Car Connectサービスへのアクセスを提供します。アプリで選択した車両機能を制御するためにこれらのサービスを使用することができます。セキュリティサービスは車両を盗難から守り、最悪の事態が発生した場合には車両の発見をアシストします。緊急故障コールとエアバッグ警報機能により、安全性がさらに向上しています。

※車両および充電インフラの仕様は日本と異なる場合があります。

E-フューエル:空気、水、電力によって生成されるガソリン

## 未来の燃料について集中的な研究を行うポルシェ

E-フューエルは合成液体燃料で、水(H<sub>2</sub>O)と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)から生成されます。その製造に必要な電力は、再生可能エネルギー(太陽光発電と風力発電)で発電する必要があります。ポルシェはこの燃料について集中的な研究を行っています。CO<sub>2</sub>排出量が、E-フューエル製造時に大気から取り出されたCO<sub>2</sub>の量に対応するため、E-フューエルを使用することで、内燃エンジンはほぼカーボンニュートラルな作動が可能になります。これはクローズドサイクルとして知られています。

E-フューエルは化石燃料に代わることができるため、CO<sub>2</sub>排出量を即座に低減する効果があります。入手しにくい場合、最初はE-フューエルを従来の燃料に混ぜることも可能です。その他のメリットには、既存のインフラを使用した保管と輸送が含まれます。さらに、世界の一部の地域ではすでに一般的なグリーン電力を、E-フューエルに保存して長距離を輸送することができます。

このように、CO<sub>2</sub>排出量の低減に寄与するE-フューエルは、ポルシェが追求するドライブ戦略の重要なエレメントとなります。ポルシェは、中期的に3種類のドライブシステムを提供します。純粋な電気自動車、きわめてエモーショナルな走りを実現するエンジン車、そしてゼロローカルエミッションのプラグインハイブリッド車です。そこには、純電気自動車モデルに加えて、最適化されたエモーショナルなエンジンとゼロローカルエミッションのプラグインハイブリッドが含まれます。E-フューエルは、エンジンとプラグインハイブリッドのCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減します。

### 原材料：水と二酸化炭素

E-フューエルの製造に必要な原材料は水と二酸化炭素の2つのみです。必要な水素は電気分解によって水から抽出します。このために、水に直流を通して水素を分離し、負極(陰極)に集めます。プロセスのエネルギー効率は約70%です。飲料水の供給を保護するため、持続可能なコンセプトでは生産施設を海の近くに建設し、可能であれば淡水化された海水を使用することを規定しています。プロセスチェーン内のE-フューエル1リッターあたり2リッターの水が必要です。

二酸化炭素は、ダイレクトエアキャプチャープロセスを使用して空気から直接抽出します。大型ファンがフィルターを通して周囲の空気を吹き込み、大気中に含まれる二酸化炭素がフィルターに付着します。プロセスに応じてフィルターがさまざまな物質を捕捉し、その後の処理でCO<sub>2</sub>が分離されます。こうした施設は、カナダやスイスなどですでに稼働しています。CO<sub>2</sub>の周囲の空気からの削減と回収は、将来の気候保護の重要なテクノロジーになる可能性があります。したがって、このテクノロジーをさらに産業化し、経済的に実行可能にすることが不可欠です。

## 風や日射の強い地域のグリーン電力によるE-フューエルの現地生産

風力と太陽エネルギーから電力を生産するための、経済的および生態学的に最適な地域は、主に風や日射の強い海岸の近くにあります。このような地域は、モロッコ、アラブ首長国連邦(UAE)、南アフリカ、南米のチリ、オーストラリアなどに見つけることができます。そのような発電所では、中央ヨーロッパに比べて3、4倍効率よく電気を生み出すことができると推定されています。電気を消費者に送電する際にその送電距離が長いと、費用がかかるうえに大きな損失が発生します。したがって、風力および太陽エネルギーが豊富な場所に専用の再生可能発電施設を建設し、そこでE-フューエルを生産することは理にかなっています。こうした理由により、風力発電所や太陽光発電所は、E-フューエルを生産する化学プラントに直接統合されます。ケーブルを介した高価で複雑な送電の必要がないため、4倍をはるかに超える電気料金のメリットが得られます。さらに、保存や輸送などの液体燃料の長所を最大限に活用し、パイプラインや船で全世界にCO<sub>2</sub>ニュートラルのエネルギー源を供給することができます。中央ヨーロッパでは状況が異なります。ここでは、風力や太陽光発電システムから生成された電気は、電気の状態のほうがより効率的に使用することができます。送電線を介した配電、バッテリーへの保存、電気自動車での使用は、E-フューエルを介した場合よりもはるかに効率的です。したがって、エネルギー生産と需要の間の地理的な距離に応じて、さまざまなアプローチが可能です。

## E-メタノールによる一般使用に適した低エミッション燃料へ

E-フューエルの製造プロセスは、E-メタノールの製造から始まります。つまり、水素とCO<sub>2</sub>から。触媒を利用するプロセスを含め、さまざまなプロセスがこれに使用されます。このE-メタノールは、化石原油や天然ガスから作られるメタノールのグリーン代替として、世界中の多くの産業部門で直接使用することが可能です。メタノールからガソリン(MtG)プロセスとして知られるたったひとつの合成ステップで、E-メタノールからさらにE-フューエル(E-ガソリン)に処理されます。さらに改良することで、この燃料はスーパー無鉛ガソリンに匹敵する高オクタン価を達成し、従来のすべてのガソリンエンジンで使用することができます。



再生可能エネルギーのみを使用してE-フューエルを製造する場合、走行中の純粋なエンジン搭載車とプラグインハイブリッド車から排出される化石CO<sub>2</sub>を大幅に低減することができます。これは、車両プール全体に適用されます。入手しにくい場合、最初は従来の燃料と混ぜて使用し、のちにE-フューエルのみを使用することも可能です。さらに、燃料の保存と輸送についても既存のインフラを引き続き使用することができます。E-フューエルを合成的に製造することで、CO<sub>2</sub>排出量を低減して効率を高める特性を備えた燃料を開発することも可能になります。たとえば、E-フューエルは、汚染物質を含まないため燃焼がよりクリーンになり、石油ベースの燃料よりも汚染物質や細かい粉塵の排出が少なくなります。つまり、E-フューエルを使用するだけで、多くの既存のエンジンから粒子などの未処理の排出物を大幅に低減することができます。

※車両および充電インフラの仕様は日本と異なる場合があります。

ポルシェ デスティネーションチャージング

## 充電インフラの拡張を加速するポルシェ

真に魅力的な車両の開発に加えて、使い勝手の良い充電インフラとインテリジェントな充電ソリューションが電気自動車の成功の鍵となります。そのため、ポルシェはこの分野で速めるため、ポルシェ デスティネーションチャージングインフラにさらに投資します。チャージングネットワークのこのパートには、三相400V交流電流(AC)と11kWの出力を備えた充電ポイントが含まれます。現在、50カ国以上に、特定のホテル、空港、美術館、ショッピングモール、スポーツクラブ、マリーナの充電ステーションを含む、1,800以上の充電ポイントがあります。ポルシェのプラグインハイブリッドモデルまたはタイカンのオーナーであれば、車を無料で充電することができます。

純正アクセサリとして入手可能な2つのチャージャーは、家庭用または産業用ソケットに接続するとき、さらに多くの電力を供給して充電時間を短縮します。ポルシェ モバイルチャージャープラスの充電容量は最大11kWです。タイカンには、オプションで22kWのオンボードACチャージャーが用意されています。このユニットを使用すると、標準装備の11kW交流チャージャーの約半分の時間でバッテリーが充電されます。2020年末からこのオプションの利用が可能になります。

### 家庭用充電ソリューションのサポート

ポルシェは、各ハイブリッドモデルにモバイル用充電ケーブルを標準装備していますが、ほとんどの充電作業は自宅で行われます。ポルシェは、さまざまなタイプの充電機器の適切なアドバイスと安全な取り付けだけでなく、インテリジェントな充電管理システムのポルシェ ホームエネルギーマネージャーによってお客様をサポートします。

ポルシェは、個々の充電状況のマルチステップチェックを提供します。ポルシェ チャージングプリチェックでは、車の購入希望者が自宅での充電が一般的に可能かどうかを関係者が早い段階で知ることができます。簡単なオンラインアンケートで、居住と駐車スペースの状況、既存の電力接続、インターネットの利用に関する情報を受け取ります。回答の内容に基づいて、お客様に最初の見積もりを提出します。個別の相談が必要なお客様は、プリチェックIDをポルシェ正規販売店に送ります。

ポルシェ正規販売店が、車両の購入前にホームチェックを行うこともできます。電気技術者が現場で状況を確認し、後日、充電ステーションを設置することも可能です。ポルシェ正規販売店は、この家庭訪問の報告書を受け取って、充電機器の選択に関する最適なアドバイスをお客様に提供します。

## ポルシェ モバイルチャージャープラス

ポルシェ モバイルチャージャーを継承するポルシェ モバイルチャージャープラスは、ポルシェ ハイブリッドモデルを充電する際に、家庭用または産業用ソケットへの接続に使用します。この非常にパワフルなチャージャーを使用すると、車両を急速充電することができます。

## ホームエネルギーマネージャーとインテリジェントな充電機能

電気技術者によって家庭用電力網に組み込まれるホームエネルギーマネージャーによって、自宅で問題なく便利に充電することができます。そのインテリジェントなコントロールセンターは、出力、時間、コストについて充電プロセスを最適化します。さらに、過負荷が発生しそうな場合に、必要に応じて車両の充電電力を減少させて、屋内のヒューズが飛ぶのを防ぐことで家庭用電力網を過負荷から保護します(停電保護)。

## ロイヤルティープログラム “&Charge

“&Charge”は、オンライン購入のE-モビリティ「キロメートル」クレジットを受け取るためのデジタルプラットフォームです。オンラインプラットフォームを介して処理される全ての購入、予約、およびその他の取引に対して「キロメートル」クレジットが付与されます。これは、たとえば、電気自動車の料金の清算や、公共のE-スクーターやカーシェアリングの無料サービスとして利用できます。

“&Charge”にあわせて、ポルシェ デジタルはE-モビリティ分野で独自の会社を設立し、デジタルビジネスポートフォリオを拡大しました。“&Charge”プラットフォームは、ドイツ、オーストリア、ベルギー、オランダで現在利用可能です。近い将来に他の国も続く予定です。

※車両および充電インフラの仕様は日本と異なる場合があります。

## 用語集

# 充電に関する最重要技術用語

AC充電: 交流電流を使った充電。電気自動車は電気を直流電流(DC)でバッテリーに蓄えます。したがって、交流電流を直流電流に変換する必要があります。これは、車載充電器で行います。

Combined Charging System (CCS、コンバインドチャージングシステム): CCSプラグを使って、ACおよびDC充電を行うことができます。普通充電用の交流電流(AC)は、上部の丸い部分の流れ、急速充電用の直流電流(DC)は下部の2つの接点で供給されます。ポルシェでは、欧州ではCCS2、米国ではCCS1を使用します。日本と中国では、現地規格(CHAdeMO、IGBT)に対応しています。

DC充電: 直流電流(DC)を使った充電。この場合、電流を変換することなく直接バッテリーを充電します。整流器はチャージングステーション側に搭載されています。

ホームチェック: 電気技術者が家庭での充電が可能か検査し、設置の見積りを作成します(契約義務はありません)。ポルシェは、The Mobility House社と協力してホームチェックを提供します。

モード3充電ケーブル: 電気自動車と公共チャージングステーションまたは充電ボックスを接続するケーブルです。このケーブルを使用すると、家庭用コンセント(Schukoタイプ/タイプF)でモード2充電ケーブルより高速で充電できます。

プラグ&チャージ: タイカンのドライバーが充電ケーブルを接続するだけで充電が開始されます。認証データが車両に保存されるため、充電ステーションは接続車両を自動的に識別します。ISO規格15118が、インフラと車両間の通信の不正防止を保証します。支払いも自動的に処理されます。プラグ&チャージは、ドイツ、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、イタリア、チェコ共和国のIonity充電ステーションですでに稼働しています。2021年の初めには、さらにヨーロッパの12カ国が続きます。米国とカナダでも、2021年の初めに、Electrify AmericaとElectrify Canadaの多数の充電ポイントでプラグ&チャージの利用が可能になります。

ポルシェ充電事前チェック: 家庭での充電オプションを簡易診断する初のオンラインサービス。お客様には個人の事前チェックIDが発行されます。これをポルシェ センターまたは電気事業者が共有し、ホームチェックを実施するなどの方法によって、より具体的なアドバイスを提供します。

ポルシェ ホームエネルギーマネージャー: このインテリジェントなエネルギー管理システムは、出力、時間および費用の点で、家庭での充電を最適化します。

ポルシェ モバイルチャージャー プラス／ポルシェ モバイルチャージャー コネクト: 家庭用または商用コンセントを使用して充電するための充電器。電力定格9.6または11 kW(ポルシェ モバイルチャージャー プラス)、7.2または22 kW(ポルシェ モバイルチャージャー コネクト)で充電できます。ポルシェ モバイルチャージャー コネクトは、Wi-Fi経由で操作できるよう設定でき、5インチのタッチディスプレイが搭載されています。両方のユニットにケーブルが付属します。また、設置用にベーシックバージョンのウォールホルダーも同梱されています。